

2001.12.30

東京女子医大病院

記録改ざん認める

ミス「隠ぺい」遺族、担当医告訴へ

東京女子医科大学病院（東京都新宿区）で今年3月、心臓中隔欠損症の手術を受けた群馬県高崎市江木町の小学6年生、平柳明香さん（当時12歳）が死亡した問題で、同病院の林直樹院長は29日、記者会見し「担当医師は人工心肺装置を、監

視する能力に欠けていた。深く反省している」と病院側のミスを認めるとともに、担当医師が診療記録を改ざんしていたことも認め、「隠ぺいの疑いもある」と述べた。同院長は、ミスの原因などについて調査を徹底する方針を明らかにした。

明香さんは3月2日、同病院の「日本心臓血圧研究所」で手術を受けたが、人工心肺が停止状態になり、脳に十分な血液が供給されずに重度の脳障害となって意識が戻らないまま、3日後に死亡した。林院長は、人工心肺の

操作を担当した医師が、通常1分間約40回のポンプの回転数を100回以上に上げたことが原因だったと説明。さらに「担当した医師に」モニターをチェックする能力や、技術が足らず、異常に気付かなかった」と述べた。

また、診療記録の改ざんについては、菅直宏・同研究所長が病院の組織的な関与は否定。改ざんの理由や、誰が改ざんしたかについては「確認していない」と述べるにとどまった。

一方、明香さんの父親で歯科医の利明さん（51）は、年明けにも、手術にかかわった医師を業務上過失致死などの疑いで警視庁に告訴する。平柳さんは「医師の対応には、怒りを感じ、明香の無念を思うと、病院を許せない」と話している。【清水憲司】

警視庁と厚生省 事情聴取始める

東京女子医科大学病院での医療死亡事故で警視庁は29日、業務上過失致死容疑で関係者から事情聴取するなど捜査に乗り出した。一方、厚生労働省も同日、林院長から診療記録の改ざんを認めた病院の調査報告書の提出を受けた上で、事情を聴くなど調査を始めた。

調査報告書によると、明香さんは、手術中に人工心肺装置が正常に作動せず、脳に十分な血液が供給されなくなったため

脳障害に陥った。担当医師が手術部位から血液を吸い上げるポンプの回転数を上げすぎたことが原因とされる。警視庁は近く、担当医師からも事情聴取する。

同省によると、同大は高度医療を担い、厚生相が承認する特定機能病院の一つ。重大な医療事故などがあれば、社会保障審議会医療分科会で審議され、最も重い場合は、同省が承認を取り消す。同省医政局総務課は「重大な過失があれば、医療分科会に諮りたい」と話している。

女子医大小児心臓手術事故

病院謝罪会見

2001年12月30日 毎日新聞